

3-③こがあなときじゃけえ ちいと てごをしようや プロジェクト

地域を学ぶ		地域でつながる	○	地域に還す	○
-------	--	---------	---	-------	---

1 事業の展開

日程	活動内容
令和2年 6月12日(金)～ 7月	①マスクづくり <ul style="list-style-type: none"> ・材料の買い出し, 洗濯, アイロンがけ ・布の裁断(大人用・子供用) ・表布と裏布を1セットにし, 合わせる ・マスクを洗う ・アイロンをかける ・アルコール消毒を行う ・ゴム紐を通す ・高齢者用・子供用のメッセージカードを入れ袋詰め
令和2年 7月7日(火)～ 7月31日(金)	②マスクの配付 <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者宅(民生委員児童委員協力), 町内小学校, 町内中学校, 市内児童福祉施設, 町内認定こども園, 社会福祉協議会支所利用高齢者, 各地域センター利用高齢者等へ配付

※地域センターや生涯学習支援センターの職員がコーディネーターとしての役割を果たし, 関係機関・者と連絡・調整し, 地域住民を主体としたプロジェクトの立ち上げ, 活動を支援。



対象	地域住民(各地域センター利用者等)
経費	東広島市新型コロナウイルス感染症対策ボランティア活動応援助成金
活動拠点	竹仁地域センター, 久芳地域センター, 上戸野地域センター等
連携先	竹仁地域センター, 久芳地域センター, 上戸野地域センター, 地域住民, 各地域センター利用者, 社会福祉協議会, 民生委員児童委員, 更生保護女性会等

問合せ先	東広島市福富生涯学習支援センター 〒739-2303 東広島市福富町久芳 1545-1 電話: 082-435-2325 ファクシミリ: 082-435-2030
------	---

2 事業設定の理由（学習の目的）

○新型コロナウイルス感染症の不安が広がる中、感染の拡大を防止する活動や地域住民の感染を予防し、不安を軽減する活動が求められている。また、マスクの入手が困難である中、「地域力（互助力・共助力）」を向上させるため、地域や個人がボランティアとして参加できるプロジェクトの立ち上げを支援することとした。

3 事業目標

○新しい生活様式が求められる中、マスクづくりのボランティア活動を通して、地域住民の主体的な活動を促し、地域のつながりを広げていく。

4 事前に必要な知識や準備物

○マスク製作の知識
○ソーシャルディスタンス等のコロナウイルス感染症拡大防止における知識
○マスク製作材料（型紙・布・マスクゴム・糸等）

5 留意点

○施設利用者やサークル等の地域の方が集まる場で声掛けをしたり、マスク製作の作業内容において可能な範囲での協力を呼びかけたりするなどの支援をした。
○地域センター等へ集合し製作を行う場合には、ソーシャルディスタンス等の十分なコロナ対策に取り組むように助言した。
○活動の様子を施設内に掲示し、活動を広げるように順次広報した。
○地域の高齢者へのマスク配付に当たり、民生委員児童委員の方に協力を促した。
○事業の実施に当たり、生涯学習支援センターや地域センター職員がコーディネーターとしての役割を果たし、関係機関・者と連絡・調整を行った。

6 成果

○地域の延べ人数約 170 人の方が、布の型取りや裁断、アイロンがけ等作業を分担して参加したり、個人で製作したものを寄付したりして、予定配付枚数を大幅に超えたマスク（700 枚以上）が集まった。
○新型コロナウイルス感染予防のためのマスク不足という喫緊の課題であったことと、製作・配付において、参加・協力が可能な内容に細分化したことにより、多くの機関・者の協力を得られた。
○手作りマスクを受け取った施設や子供たちから感謝状や手紙をいただいた。
○新型コロナウイルスの影響で活動する場がなくなった地域住民の方々のやりがいづくりになっただけでなく、直接かかわることが少ない子供たちとの間接的なつながりを持つきっかけになった。

7 課題

○この活動により、地域住民へ十分にマスクを供給できた。今後は、地域の他の取組においても、このような潜在的な「地域の力」を引き出し、より住民の主体的な活動へつなげていくことができるような支援の仕方や仕掛けづくりが求められる。

8 今後に向けて

○継続してマスクを製作してくださる住民がいるため、高齢者施設へ配付する際の運搬等の支援をする。
○より一層の「つながりづくり」や「地域づくり」につなげるため、施設利用者が通常行っている活動とは違う活動を行ったり、普段は活動していない地域住民が新たな活動を行ったりする活動を継続して支援していくとともに「仕掛け」を構築していく。
○今回のプロジェクトで生まれたネットワークを地域学校協働活動の展開へとつなげていく。